

京都大学本部試験地見本園の樹木目録

安藤 信・田中 壮一・山本 俊明

はじめに

京都大学演習林本部試験地は京都市市街地の北東部、京都大学北部キャンパスの北に位置する。大正12(1923)年、農学部が設置されるとともに林学科の苗圃として出発したが、事業の性質上演習林で管理することになったものである。それ以来、学生の演習、教官の研究、演習林の試験研究のなかでも、とくに精密な観測や観察、特殊な装置の使用を必要とするものを行う場として利用されてきた。昭和3(1928)年の演習林概要¹⁾によれば、面積約1.4haを3つの区域に大別し、キャンパスと民地の境界に沿う狭長な部分をわが国の北から南に産する樹木種を順次東から西に向かって植栽する見本園、中央部の大部分は各種試験地や苗圃、その周辺はわが国や海外から収集された観賞用樹木の見本園とし、当時植栽されていた樹木種総数は170種と記録されている。その後も積極的な樹木の植栽が試みられたようで、昭和25(1950)年の報告では600種に及んでいる²⁾。それ以来40年間、当試験地ではサクラ(*Prunus*)、ツバキ(*Camellia*)、カエデ(*Acer*)、ツツジ(*Rhododendron*)、アジサイ(*Hydrangea*)属をはじめ多くの園芸品種の収集も行われてきた。一方、植栽木の径化に伴う周辺民家への影響も見逃せず、伐採、過度の剪定による消滅、あるいは過密による陽生低木の枯損も著しく、刻々と構成種は変化している。昭和60年台から当見本園を再整備するための作業が続けられ、平成2(1990)年に真鍋はそれまでに同定できた420種あまりの樹種の樹木目録を作成し、その中で構成種の開花期と原産地を紹介した³⁾。

このような状況の中で、平成2(1991)年11月から植栽木のサイズと状況、正確な位置図を作成することを目的に第1回目の全域調査を実施した。調査内容は種名、直径、樹高の測定、形態についての記録からなり、平成4年9月にこれらの調査結果をもとに樹種名の確認調査を実施した。これらの調査は浅野善和、北和也、榎木達也、田中弘之、真鍋逸平、山根大樹の各氏をはじめ多くの演習林関係者に協力していただいた。本報告はこれら2回の調査結果と残された導入後の記録をもとに樹木目録を作成したものである。

目録には樹種名、1回目の調査時点の最大の胸高直径cm(樹高m)(ほとんど同一個体である)、原産地、位置図(図1~5)上の番号を示し、2回目の調査時まで枯死した個体は番号の後に×印で示し、欧米の樹種は英名を付記した。また蔓の形態を示すもの、生垣などで刈り込まれたものなど、人為的作業によって樹高が左右されている場合も付記することにした。原産地は日:日本、

Makoto ANDO, Soich TANAKA and Toshiaki YAMAMOTO

A List of Trees in the Arboretum of Experimental Nursery on Campus in Kyoto University Forests